

メッセージアウトライン

ガラテヤ 4：1~7「神による相続人」

「ところが、相続人というものは、全財産の持ち主なのに、子どものうちは、奴隷と少しも変わらず、父の定めた日までは、後見人や管理者の下にあります」(1,2) これは当時のローマ法や世間一般の習慣であった。現代でもこの精神は生きている。

「私たちもそれと同じで、まだ小さかった時には、この世の幼稚な教えの下に奴隷となっていました」(3) この「まだ小さかった時」とは 3:23 で言われていた「信仰が現れる以前」のことでキリストによる救いが現われるまでのこと。「この世の幼稚な教え」とは具体的には何を食べ、あるいは何を食べてはいけないかという食物に関する規則や、4:10 にある各種の日、月、年に関する規則などのことを言う。これは当時のユダヤ教律法主義に当てはまる。この世の幼稚な教えは人を救うものではなく、人を重荷のもとに置いて苦しめるものである。

「しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました」(4)

神の救いの方法は第一に御子を「女から生まれた者」とすることであった。これは神の御子が人間性をとってこの世に来られたことを示している。第二は「律法の下にある者」されたこと。これはアブラハムの子孫として、神から律法の与えられたユダヤ人の中に生まれられたということの意味する。しかし律法の道徳的な教えは、ユダヤ人のようには律法を知らなくても、神のかたちに造られた人間すべての心に刻み込まれているのである。ローマ 2:14~15

「これは律法の下にある者を贖い出すため、その結果、私たちが子としての身分を受けようになるためです」(5)

神の御子イエス・キリストがこの世に来てくださったのは、この律法の呪いの下にある者を救うためであった。イエスは罪の呪いと悲惨のもとにあった者をその十字架の死によって贖いだしてくださった。(贖い=代価を払って買い戻すこと) その贖いの目的は私たちが神の子としての身分を受けするためであった。この神の救いの動機は愛。ヨハネ 4:9~10

信仰によってイエス・キリストを救い主と信じた者は神の前に^{ただ}義しい者と認められる。もはやこの世の幼稚な教えの奴隷ではなく、神の子とされるのである。

「そして、あなたがたは子であるゆえに、神は『アバ、父。』と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。ですから、あなたがたはもはや奴隷ではなく、子です。子ならば、神による相続人です」(6,7)

「アバ」とはアラム語で「父」という意味。イエスも同じように祈られた。マルコ 14:36 イエス・キリストによって贖われ、神の子とされた者はイエスと同じく、「お父さん、お父さん」と呼んで祈ることができる御子の御霊、つまり聖霊が与えられるのである。そして「子」とされたなら、「相続人」ともされる。私たちは神から相続するものが、どれほどすばらしいものであるか、その高さ、深さ、広さを知り、味わうものとなりたい。私たちは神の相続人として喜び、感謝、祈りをもって御霊により頼みつつ、信仰の歩みを進めていきたい。